



身体の病気と歯科との関係

関節リウマチと歯科治療 ⑩

歯科医師 東海林 克

「関節リウマチ」は、本来自分を守るはずの「免疫機構」の異常で起こることについて、「免疫機能」の概要を含めてお話ししてきました。今回から「関節リウマチ」の病気の進行様態、診断に至る検査法、そして現在行われている治療法を中心に、歯科との関連の深い所についてはその内容について話していきたいと思えます。

◇関節リウマチの主な初期症状

- 関節リウマチの初期に現れる症状としては以下のものがあります。
- (1) 朝、関節がこわばって動かしにくく、いつもの状態に戻るのに1時間以上かかる。
 - (2) 複数の関節が熱を持ち腫れて痛む。腫れや痛みは左右対称に起こる。
 - (3) (1)、(2)の症状は、手指の小さな関節に起こりやすい。
 - (4) 関節症状が出る前に、疲労感、微熱、食欲不振、体重減少など「過労」のような症状が続くこともあります。
- これらの他にも様々な症状を示します。

◇関節リウマチの進行に伴う関節の破壊と機能障害の程度による分類

ウィーン生まれのアメリカのリウマチ研究のバイオニアである「オットー・スタインブロッカー」… Otto Steinbrocker (1898-1987) が 1949年に報告した「単純X線画像と周囲組織の所見から分類するステージ分類」と、米国リウマチ学会のクラス分類が用いられます(下表参照)。かつて、リウマチは症状がゆっくりと進行するもので関節破壊が起こるのは、発症後10年以上が経過してからと考えられていました。最近の研究では、発症して早期に関節破壊が進むことがわかり、早期の発見と治療が重要であるとされています。

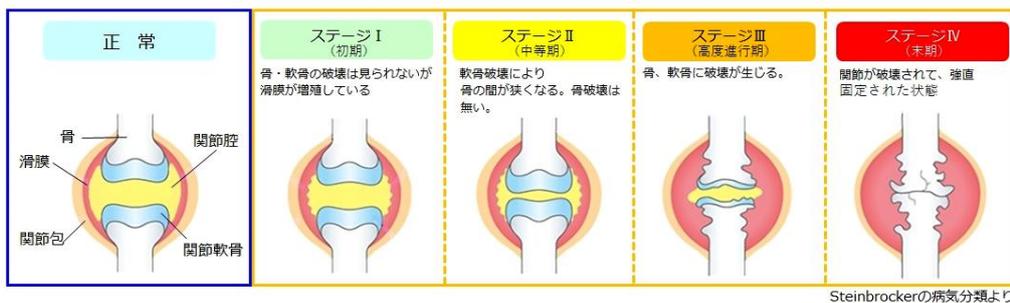


◇関節リウマチの検査

関節リウマチの診断には、詳しい検査が必要となります。行われる主な検査は、以下の通りになります。

- (1) 問診・触診
- (2) 血液検査
- (3) 画像検査

関節破壊の進行度 (ステージ)



関節破壊の進行度 (クラス)



引用文献(2)より引用改編

視診・触診・打診

関節の状態を確認	関節の腫れや変形の状態をみます
運動機能の確認	握力、手の動き、肩やひじの関節の動きをみます。歩行の様子などを確認することがあります
膝・頸椎の状態を確認	膝の下を打腿器で軽くたたいて、腿販社の様子をみます。頸椎のずれや亜脱臼の有無をみます。
肘の確認	「リウマチ結節」のできやすい肘を視診と触診で確認します。
首などの確認	首の甲状腺、首・わきの下のリンパ節、耳の下の耳下腺に腫れが無いか、触診で確認します。
血管炎の症状の確認	爪の周囲に点状出血や紫斑、壊疽などの皮膚病変と、膝から足首までの皮膚に潰瘍ができていないかを確認します。寒いときには皮膚が斑状に変色する"レイノー症状"の有無を確認します。弁膜症や心膜炎などの心臓病や、間質性肺炎の兆候はないか、心音や呼吸音を確認します。手足の神経麻痺の有無も確認します。

引用文献(6)より引用改編

(1) 問診・触診

リウマチは関節の痛みや腫れを特徴とした症状を示す疾患ですが、同様の症状を示す疾患は左中表に示すように様々なものがあります。近年では早期に適正な診断と治療を行うことで、病状の進行を抑えることが可能になっています。疑わしい症状がある場合には、可能な限り早期に専門家を受診して治療を開始することが望ましいといわれています。他の疾患と同様に、

病状に関する問診と視診・触診・打診が病状を把握するうえで重要になります。

◆問診：以下のようなことを確認します。

① 家族歴：家族の中に関節リウマチや全身性エリトマトーデス、多発性筋炎、合皮症、シェーグレン症候群などの自己免疫疾患の人がいるかどうかを確認します。
グレン症候群、高血圧などについて確認

関節症状をきたす疾患

機序	代表的疾患・事象名
加齢/過行	変形性関節症
外力(突発性)	外傷
外力(反復性)	リウマチ結節」のできやすい肘を視診と触診で確認します。
出血	外傷性関節内出血、血友病性関節症
感染(ウイルス性)	ウイルス感染に伴う関節炎(肝炎ウイルスなど)
感染(細菌性)	化膿性関節炎、リウマチ熱
感染(抗酸菌性)	結核性関節炎、非定型抗酸菌性関節炎
結晶沈着	痛風性関節炎、CPPD結晶沈着性関節炎(偽痛風)
自己免疫性/炎症性	関節リウマチ及び類縁疾患(リウマチ性多発性筋痛症など) 脊椎関節炎および類似疾患(乾癬性関節炎、強直性脊椎炎など) 全身性自己免疫疾患(シェーグレン症候群、全身性エリトマトーデスなど) 血管炎症候群(高血圧性動脈炎、巨細胞性動脈炎など) その他の自己免疫疾患/炎症性疾患(パーチェット病、サルコイドーシスなど)
内分泌/代謝異常	糖尿病、甲状腺機能低下症、更年期障害など
悪性腫瘍	血液腫瘍、傍腫瘍症候群
その他	アミロイドーシス 複合性局所疼痛症候群 線維筋痛症

② 既往歴：過去にかかった病気について確認します。甲状腺の病気、シェーグレン症候群、腎臓病や肝臓の病気、糖尿病等、さらに服用中の薬とアレルギーの有無を確認します。

③ 現病歴：現在ある症状がいつごろから発現して、現在までに至る変化について確認します。

◆視診・触診・打診：左中表に示す「関節症状をきたす疾患」との鑑別が必要ですので、左下表に示すような診査を行います。

典型的な炎症性/非炎症性の関節症状

項目	方法			炎症性	非炎症性
	病歴/問診	視診	触診		
時間/誘因				朝or動きはじめに強く動かしていると改善傾向	労作によって誘因され、動かしていると悪化傾向
朝のこわばり	○	×	×	あり	なし
NSDAIs / ステロイドに対する反応性*				あり	限定
発赤	○	○	×	あり	なし
熱感	○	×	○	あり	なし
圧痛	×	×	○	あり	限定
腫脹	○	○	○	あり	なし(骨性腫脹)

*反応性は個人差が大きく、ステロイドの診断的治療は原則避けるべきである
NSDAIs: ステロイド性抗炎症薬

引用文献(7)より引用改編

《引用文献》
(1) 医療法人 東永内科リウマチ科 リウマチの話 その1 ホームページ
(2) 株式会社製薬 おしえてリウマチ なぞを知る。未来が変わる。 受診前の準備 関節リウマチの症状の進み方 ホームページ
(3) 医療法人 東永内科リウマチ科 関節リウマチ・膠原病 リウマチのお話し ホームページ
(4) Steinbrocker O, et al: Therapeutic criteria in Rheumatoid arthritis. J Am Med Assoc. 25: 659-662, 1949. ホームページ
(5) NCTN 健康チャンネル 関節リウマチの初期症状 診断を行い早期発見 ホームページ
(6) 株式会社薬 リウマチのナビ 関節リウマチ総合情報サイト ホームページ
(7) 池田 啓 リウマチ学 診断と治療の進歩 II 鑑別診断 1. 関節リウマチの鑑別診断に有用な症状・身体所見 日本内科学会雑誌 Vol.103, No.10, 2014